

【Remudy ニュースレター第20号】

配信日:2013 年 04月 04 日

皆様こんにちは。2013 年度、最初のニュースレターです。新年度もどうぞよろしくお願いいたします。

今回は、デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対するステロイド治療に関連したカナダの Dr. Khairy らの論文を紹介します。

All-cause mortality and cardiovascular outcomes with prophylactic steroid therapy in duchenne muscular dystrophy.

Schram G, Fournier A, Leduc H, Dahdah N, Therien J, Vanasse M, Khairy P.

Department of Cardiology, Montreal Heart Institute, Université de Montréal, Montreal, Quebec, Canada.

J Am Coll Cardiol. 2013 Mar 5;61(9):948-54. doi: 10.1016/j.jacc.2012.12.008. Epub 2013 Jan 23.

ACE 阻害薬を使用しているデュシェンヌ型筋ジストロフィーの患者さんを対象に、ステロイド治療の有無で心機能と生存率を比較した研究です。ステロイド治療群が、ステロイド未治療群と比較して、心筋症の発症や進行がおさえられ寿命が延長していたと結論づけられています。

<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/23352781>

日本では、2011年9月にDMDに対するプレドニゾロンの保険適応が認められ、現在は薬事承認へ向けた検討が進められています。

論文を紹介してくれた竹内先生は、3月16-23日に米国サンディエゴで開催されました2013 American Academy of Neurology (AAN) Annual Meetingで、Remudy登録患者さんのデータを解析しステロイド治療の有効性について発表されました。こちらはRemudy通信などでも紹介する予定です。

文責:木村円 Remudy 患者情報登録部門